

KEYWARE TIMES

株主通信 Vol.34

第58期 事業報告

2022年4月1日～2023年3月31日

特集 キーパーソンに聞く

社会やお客さまのDX実現を支援する
ローコード／ノーコード開発、
クラウドサービス等の
活用拡大に向けた取り組み



IT can create it.

キーウェアソリューションズ 株式会社
東証スタンダード市場 3799

■ インターネットIR情報

当社は、株主・投資家の皆さまにタイムリーでわかりやすい情報発信を目指し、ホームページの充実をはかるなど、IR活動の向上に取り組んでいます。

キーウェア IR <https://www.keyware.co.jp/ir/>

■ IR情報

■ **個人投資家の皆さまへ**
より深く当社グループをご理解いただくために個人投資家の皆さまへ向けた情報を発信しております。

■ **決算説明 (動画配信)**
決算説明の動画を資料とともに配信しております。業績報告や今後の戦略などについてご説明しております。

キーウェアソリューションズ 株式会社

〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18

経営企画部 広報IR室

<https://www.keyware.co.jp>



JUSE-RA-034
QMS, EMS, ISMS
Registrations JUSE-EG-266
JUSE-IR-001

本誌は、FSC®森林認証紙と、
植物性インキを使用しています。

※掲載されている会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

お客様のデジタルトランスフォーメーション
実現に向けた支援を強化し、
中期経営計画の達成を目指します。



代表取締役社長

三 田 昌 弘

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年3月期において、当社グループは、2023年3月期を初年度とする5か年中期経営計画「Vision2026」をスタートし、「基盤事業^{*1}の質的転換」「プライムビジネス^{*2}の拡大」「新領域へのチャレンジ」を基本方針に、事業拡大と高収益化の実現に向けて取り組みを進めました。基盤事業では、プロダクトやクラウドサービスなどの各種開発ツール等を活用した開発手法の活用拡大に加え、2021年に資本業務提携した3社（株式会社JR東日本情報システム、兼松エレクトロニクス株式会社、キャノンマーケティングジャパン株式会社）との連携の強化、請負案件の拡大、不採算案件の抑制等に取り組みました。プライムビジネスについては、各種イベントや展示会への出展、セミナーの開催など積極的な販売活動を展開したほか、提案力の強化に向けてコンサルタント等の育成に取り組みました。新領域については、昨今、対策の重要性が高まっているサイバーセキュリティ領域や、今後拡大が見込まれるデジタル金融領域など、新たな事業領域拡大に向けた検討やエンジニアの育成を進めました。また、昨年7月に連結子会社「キーウェア東北株式会社」を設立しました。同社は本年1月より、いわぎんリース・データ株式会社のシステム部門の事業を承継し、東北地域を基盤とする企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）実現に向けて、当社グループと連携した提案活動を推進しています。

こうした取り組みの結果、当社グループの当連結会計年度の業績は、受注高は19,504百万円（前期比615百万円増、3.3%増）、売上高は19,173百万円（同746百万円増、4.0%増）、営業利益は738百万円（同187百万円増、34.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は482百万円（同73百万円減、13.2%減）となりました。

当社グループが属する情報サービス産業界では、DX加速によるIT投資需要が今後も継続すると見込まれています。また、IT技術は日々進化しており、社会環境や顧客ニーズもめまぐるしく変化しています。こうした事業環境のなかで持続的成長と企業価値のさらなる向上をはかるべく、当社グループは引き続き中期経営計画達成に向けて着実に取り組みを推進してまいります。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

^{*1} 当社グループの売上高の大部分を占めるシステム開発事業とSI事業を、基盤事業と位置付けています。

^{*2} 当社グループでは、お客さまと直接契約を結びサービスやソリューションを提供する事業を「プライムビジネス」と称しています。

連結業績ハイライト

（単位：百万円、単位未満切り捨て）



*親会社株主に帰属する当期純利益を表記しています。

▶ 連結業績に関して、より詳細な情報を決算説明動画で配信しています。裏表紙に記載のQRコードからご覧ください。

社会やお客さまのDX実現を支援する ローコード／ノーコード開発、 クラウドサービス等の活用拡大に向けた取り組み

中期経営計画「Vision2026」の実現に向けて、キーパーソン3名に聞きました。

所属部署・役職など、記事内に記載の内容は2023年3月の取材時点のものです。

Q 各部門ではどのようにローコード／ノーコード開発、 クラウドサービス等を活用していますか。



社会システム事業部長
小森 昌博

小森：社会システム事業部は、道路、航空、通信、宇宙、メディア関連など幅広い分野の案件を手がけており、スクラッチ開発*とWebPerformerなどを活用したローコード開発の両方を行っています。ローコード開発は、プログラミング作業を極力減らし、あらかじめ用意されている開発ツールをベースにしてシステムを構築する手法です。スクラッチ開発よりも開発期間を短縮できる上、プログラミングによる不具合が少なく品質を担保できるので、生産性と品質の向上に寄与しています。

秋山：カスタマーサクセス本部は、営業とコンサルタントが一体となって提案活動を展開しています。お客さまの業務改善を支援するソリューションとしてASTERIA Warpなどのノーコード開発ツールの活用をご提案しています。ノーコード開発は、プログラミング作業を行わず直感的に操作できるツールを使う手法です。例えば、画面上のアイコン同士を線でつなぐだけでシステム間のデータ連携ができるため、ITに精通していないお客さまでも迅速にシステムを開発することが可能です。

水田：IoT&クラウドシステム事業部は、製造業や自動車関連のIoTソリューションや、ServiceNowというクラウドサービスを活用した開発に取り組んでいます。クラウドサービスは、インターネット経由でソフトウェアやハードウェアの機能を提供するサービスです。自前で設備を用意する必要がないため、より低コストで迅速にシステムを構築できます。

Q お客さまのニーズが増えている理由を教えてください。



カスタマーサクセス本部長
秋山 好成

秋山：お客さまのニーズが増えている理由の1つは、DXの推進です。ビジネスを変革するためには、必要な時に必要なシステムを構築し、市場ニーズに合わせて柔軟に変更する必要があります。こうした課題を解決するためにこういった開発手法の活用が求められていると思います。

水田：ServiceNowも、データのデジタル化を目的に導入されるお客さまが多いですね。このようなプロダクトの活用は民間企業だけでなく、行政でも広がっています。

小森：社会インフラ領域の開発案件でも引き合いが増えています。以前はスクラッチ開発で行っていた大規模な案件も、ローコード／ノーコード開発やクラウドサービスを活用して開発する流れが加速していると思います。

Q 今後の取り組みを教えてください。

小森：当部門では、WebPerformerを活用した大型請負案件の開発実績を有しており、引き合いが増えています。認定技術者を増やすなどエンジニアの育成を強化し、社会インフラ領域での請負案件の拡大に取り組んでいきます。

秋山：DXを支援するソリューションとしてノーコード開発などを提案していくことはお客さまの裾野を広げる上で非常に有効です。セミナーなどを通して今まで当社がアプローチできなかったお客さまを獲得し、プライムビジネスの拡大につなげていきます。

水田：前年度はServiceNowを活用した大型請負案件の獲得が進みました。今後は大型案件の開発経験を活かすとともに、さまざまな製品・サービスを組み合わせることで、より多くのお客さまのビジネスに貢献できるサービスを提供していきます。

※ オリジナルのシステムをゼロから作り上げる開発手法のこと



IoT&クラウドシステム事業部長
水田 貴之

Close Up キーウェア

キーウェアグループのビジネス展開や取り組みについてご紹介します

>>> IT Event

■ DX推進をテーマとしたイベントへの出展やセミナーを開催

当社グループは、DX推進をテーマに開催されたイベントに出展し、当社が提供する「AI-OCR KeyRex with AI inside※1」やRPA※2などの業務のデジタル化を支援するサービスのデモンストレーションや事例紹介を行ったほか、当社エバンジェリストがノーコードで実現するDX推進をテーマに講演を行いました。今後もより多くの皆さまに当社サービスを知っていただけるような活動を展開してまいります。



大学ICT推進協議会
年次大会2022の模様



TOHOKU DX WORLD2023の模様

※1 AI-OCR KeyRex (キーレックス) with AI inside:

手書き書類や帳票の文字をOCR(光学文字認識機能)で読み取り、AIでデジタルデータに変換するサービス

※2 RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション): ロボットによる業務自動化

DX推進をテーマとした
イベントへの出展実績

- 大学ICT推進協議会 年次大会2022 (2022年12月)
DX up to DATE ーシン・セカイに向けてー
- TOHOKU DX WORLD2023 (2023年2月~3月)

>>> IT Event

■ 「Care Show Japan 2023」に出展し、「健康からだコンパス LifeRoute (ライフルート)」を紹介

当社は、2023年2月に東京ビッグサイトで開催された国内最大級のヘルステックイベント「Care Show Japan 2023」に出展し、スマートフォンと連動した健康管理サポートサービス「健康からだコンパス LifeRoute」の機能・サービスや自治体などでの活用事例をご紹介しました。期間中は、多くの皆さまにご来場いただきました。



Care Show Japan 2023の模様

>>> Brand-New Business

■ キーウェア東北がいわぎんリース・データからの承継業務を開始

当社の連結子会社であるキーウェア東北株式会社は、2023年1月1日よりいわぎんリース・データ株式会社のシステム部門の事業を承継し、業務を開始しました。また、同日より本社を岩手県盛岡市に移転しました。東北地域の企業の経営課題解決と持続可能なまちづくりに一層の貢献を果たしてまいります。

CSR活動 「2022年度東京ベイ・クリーンアップ大作戦」に参加

2022年11月に開催された東京・お台場海浜公園のクリーンアップキャンペーン「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」に、当社グループ東京地区2社の社員とその家族合わせて28名が参加しました。当日は総勢582名の参加者が海浜清掃を行い、約97kgのゴミを収集しました。今後も社員が家族と一緒に参加できる社会貢献活動を継続してまいります。



当社では、毎年「CSR報告書」を発行しております。当社ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

▶ <https://www.keyware.co.jp/about/csr/report-index.html>



TOPIC 「全上場企業ホームページ充実度ランキング」で優秀サイトを受賞

日興アイ・アール株式会社が選定する「2022年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」のスタンダード市場部門において、「優秀サイト」を受賞しました。今後もIRサイトの充実をはかり、タイムリーでわかりやすい情報発信に努めてまいります。



連結財務諸表(要約)

単位：百万円、単位未満切り捨て

Financial Data

連結貸借対照表

	前 期 2022年 3月31日現在	当 期 2023年 3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	7,048	7,368
固定資産	3,696	3,784
有形固定資産	88	100
無形固定資産	366	487
投資その他の資産	3,241	3,196
資産合計	10,745	11,153
(負債の部)		
流動負債	3,167	3,015
固定負債	122	330
負債合計	3,290	3,345
(純資産の部)		
株主資本	7,372	7,760
その他の 包括利益累計額	83	47
純資産合計	7,455	7,807
負債純資産合計	10,745	11,153

POINT 資産の部

契約資産、投資有価証券の減少はありましたが、現金及び預金、売掛金、無形固定資産の増加などにより前期末比408百万円増加の11,153百万円となりました。

POINT 負債の部

買掛金、短期借入金の減少はありましたが、契約負債、未払消費税等、退職給付に係る負債の増加により前期末比55百万円増加の3,345百万円となりました。

POINT 純資産の部

利益剰余金の増加などにより前期末比352百万円増加の7,807百万円となりました。その結果、当期末の自己資本比率は、70.0%となりました。

連結損益計算書

	前 期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	当 期 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
売上高	18,427	19,173
売上原価	15,466	15,732
売上総利益	2,961	3,441
販売費及び一般管理費	2,410	2,702
営業利益	551	738
経常利益	755	921
親会社株主に帰属する 当期純利益	556	482

POINT 売上高

運輸系、基幹システム系の大型案件の開発進捗および公共系、クラウド関連の受注拡大により前期比746百万円増加の19,173百万円となりました。

POINT 営業利益

売上高の増加、不採算案件の収束および開発業務の効率化などにより前期比187百万円増加の738百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

	前 期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	当 期 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	552	653
投資活動による キャッシュ・フロー	△394	△50
財務活動による キャッシュ・フロー	△343	△474
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△184	128
現金及び現金同等物の 期首残高	1,095	910
現金及び現金同等物の 期末残高	910	1,038

POINT 連結キャッシュ・フロー

営業CFは、売上債権の増加、仕入債務の減少などがあったものの、税金等調整前当期純利益の計上などにより653百万円のプラス、投資CFは、無形固定資産の取得などにより50百万円のマイナス、財務CFは、短期借入金の減少などにより474百万円のマイナスとなりました。その結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前期比128百万円増加の1,038百万円となりました。

株式情報

(2023年3月31日現在)

Stock Information

株式情報

- 発行可能株式総数
……………36,440,000株
- 発行済株式総数
……………9,110,000株
- 株主数
……………4,015名
- 主要法人株主
株式会社H B A
株式会社 J R 東日本情報システム
兼松エレクトロニクス株式会社
キャノンマーケティングジャパン株式会社
住友生命保険相互会社
株式会社三井住友銀行

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会、期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
【郵便物送付先】	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
【電話照会先】	(フリーダイヤル)0120-782-031
【インターネット ホームページ URL】	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事 故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載 する方法により行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場

株式に関するお手続き

- 住所変更などのお届け出およびご照会について
お取引の証券会社にお問い合わせください。証券会社の口座のご利用がない株主さまは上記の三井住友信託銀行の電話照会先にお問い合わせください。
- 未払配当金のお支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行にお申し出ください。

会社概要

(2023年6月21日現在)

Corporate Data

会社概要

商号	キーウェアソリューションズ株式会社
所在地	〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18
創立	1965年5月
資本金	17億37百万円
売上	191億73百万円(2023年3月期・連結)
従業員数	1,262名(2023年3月31日現在・連結)
取得認証・認定	品質マネジメントシステム登録事業者 プライバシーマーク使用許諾事業者 情報セキュリティマネジメントシステム登録事業者 環境マネジメントシステム登録事業者 子育てサポート企業 くるみん認定 健康経営優良法人認定制度(大規模法人部門)認定

役員

代表取締役社長	み た まさ ひろ 三 田 昌 弘	監 査 役	さわ だ のぶ ゆき 澤 田 伸 行
取 締 役	あら かわ しん いち 荒 河 信 一	監 査 役	うしろ ね けい じ 後 根 桂 二
取 締 役	お がわ とし かず 小 川 俊 一	社 外 監 査 役	たき た ひろし 瀧 田 博
取 締 役	さい とう いく お 斉 藤 郁 夫	社 外 監 査 役	おお た けん いち 大 田 研 一
取 締 役	か とう てつ ろう 加 藤 徹 郎		
取 締 役	すえ つな たく や 末 綱 琢 也		
社 外 取 締 役	おか だ かつ とし 岡 田 勝 利		
社 外 取 締 役	の だ まき こ 野 田 万起子		
社 外 取 締 役	ステファン グスタフソン		

※取締役 岡田 勝利、野田 万起子およびステファン
グスタフソンは、会社法第2条第15号に定める社
外取締役です。
※監査役 瀧田 博および大田 研一は、会社法第2条
第16号に定める社外監査役です。
※取締役 岡田 勝利、野田 万起子、ステファン グ
スタフソンおよび監査役 瀧田 博、大田 研一は、東京
証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益
相反が生じるおそれのない独立役員です。